

10月から高齢者見守り事業

ツイッターで安否確認

徳島ネット市民塾

東新町商店街 核に
多機能携帯貸し出し 集客も狙う



「徳島ネット市民塾」は、インターネットの活用を推進し、高齢者の生活を支えるための事業として、東新町商店街を核に、多機能携帯を貸し出し、高齢者の見守り事業を実施する。また、インターネットの活用を推進し、高齢者の生活を支えるための事業として、東新町商店街を核に、多機能携帯を貸し出し、高齢者の見守り事業を実施する。

平成22年6月23日 徳島新聞

5年ぶりに 県立三好病院 研修医着任

徳島大の「総合医」目指し 河南さんの「総医」目指し

河南さんは、徳島大の研修医プログラムで、5年ぶりに研修医が着任した。河南さんは、徳島大の研修医プログラムで、5年ぶりに研修医が着任した。



徳島大の「総合医」を目指す河南さんは、5年ぶりに研修医が着任した。河南さんは、徳島大の研修医プログラムで、5年ぶりに研修医が着任した。

平成22年7月2日 徳島新聞

地域医療盛り上げたい 熱意 乱舞で表現

徳島大医学部「地医輝連」発足

14日 蜂須賀連とデビュー

地域医療を盛り上げよう。徳島大医学部の学生サークル「地医輝連」が発足した。14日、蜂須賀連とデビューした。



徳島大医学部の学生サークル「地医輝連」が発足した。14日、蜂須賀連とデビューした。

平成22年7月31日 徳島新聞

子どもの成長 運動効果討論

徳島大

銅メダリスト 朝原さん講演

徳島大学の地域交流シンポジウム「スポーツから体へ、体から脳へ」が11日、徳島市内の同大常三島キャンパスであり、約1300人が子どもの成長に与える運動効果などについて考えた。



自身の幼少時代について話す朝原さん
—徳島大学常三島キャンパス

く遊んだ幼少時代や、陸上教室での実践例を紹介して「子どもたちには筋力や技術の上だけでなく、自分で考えて取り組むことで『感性』を高めてほしい」と語った。

続いて、「子ども・スポーツ・地域社会」をテーマに朝原さん、同大の葉木秀夫教授らがパネル討論。「疲れた」と話す子どもの増加などが話題となり、朝原さんは「親もすぐに『疲れた』と言う家庭環境、社会の大人の姿が反映されているのでは」と指摘した。

平成22年10月12日 徳島新聞

地域で資源循環必要 上勝町長ら5人が力説

地域資源を活用した「ジネスモデルのつくり方」を学ぶ「徳島大学・上勝町 地域再生人材創出講座」が27日、2日間の日程で同町の福原ふれあいセンターで始まった。

初日は笠松和町長ら5人が講師を務め、町内外の26人が受講した。笠松町長は、同町で進めている「みゆげや町産木材で産業の源を暖める木質チップボイラーの活用などを紹介。「次世代に美しい町を継承するため、地域で資源を循環させる仕組みづくりが大切」と力説した。

受講生の杉本歩美さん（26）「上勝町や西船場町」の重要性を感じた」と感無職は「地域資源を生かした」と話した。



上勝町のごみ削減の取り組みなどについて学んだ講座—上勝町の福原ふれあいセンター

徳大 地域創世
人材育成講座

平成22年11月28日 徳島新聞

那 賀 食で地域活性化へ ご当地グルメ「かきませ」核に

郡内町のユズ酢を使ったちらしずし「かきませ」のブランド化に取り組み徳島大などが27日、ご当地グルメと地域づくりを考える集いを、相手を交えて交流館（那賀町横石）で開いた。約80人が参加。基調講演や座談会があったほか、会場では、かきませが振る舞われた。

【産尾昭寛】

徳島大は那賀町と連携、地域活性化に向けて研究者や地元住民が参加する「地域再生塾」を作っている。この日は、石川順・奥能登の海の幸や新鮮な食材を盛りだくさんに集めたオアシナル丼一能登井一に取り組み、奥能登登広城園事務所組合の野中淳也さんが基調講演した。

野中さんによると、能登井は07年12月から提供を開始。現在は、地元のレストランなど

どのお店がそれぞれに工夫をこらした丼を販売する野中さん、地元の人との話し合いを重視し、また、井の認知度を高めるために継続して話題を提供してきたことを紹介。取り組みのポイントの一つとして「地元特産品との連携的に向かっている」と話している。取り組みが広がれば、取り組みが広がり地域は動く」と話した。

また地域再生塾のメンバーや野中さんらが参加して座談会も開かれ、かきませやユズをどう活用していくかをどう活用していくかを交換。スギなど別のムツリを育て、「目」をできる人が3人も外へのユズ活用でPRしていくアイデアが出た。

平成23年2月28日 毎日新聞